佳作

まいごになったわたしの気もち

千葉県 千葉市立鶴沢小学校二年　森田 しずく

「しーちゃん、レッスンのまえとあとに、ぜんこく大会のれんしゅうこれる？」

しんたいそうの先生から言われた。わたしの目ひょうのひとつは、ぜんこく大会でゆうしょうすることだったので、すぐにへんじをした。れんしゅうじかんも長くてかえりにはお話しする元気もないくらいだったけど、たのしかった。

会じょうにつくと千ば大会とくらべものにならないくらい人がいた。もちろん知らない人ばかりでドキドキした。

「ゆうしょうしたい」。でもできるかしんぱいにもなった。

わたしのじゅんばんは十九ばん。一人一人えんぎをしていくのでまっているあいだが長かった。二十ばんのよこはまからきた子とともだちになった。話しあいてができてまつじかんがみじかく思えた。

わたしのばんになった。名前をよばれるとき、ちがう学年のしんぱんをしている先生にきこえるように大きなこえでへんじをした。えんぎ中はベストスマイルでおどれるように気をつけた。

「じょうずにできたはず」。そう思った。わざのときに、つま先やひざをのばすことをいしきしてえんぎができたから。

だけど、わたしの点数がはっぴょうされたのを見て一いはむりだって思った。そのときの一いの子とは、一・七ポイントさがあったからだ。でも十い入しょうはしていると思って、ぜんいんのえんぎがおわるのをまった。

ひょうしょうしき、名前がよばれるかどうかドキドキしてた。でもよばれなかった。十いまでによばれなくてなきそうでたまらなかった。ママと会って、ないた。くやしかった。なんでだろう。うまくなりたい。いろんな気もちがまざってた。

かえりみちに、

「がんばったよ。」

と言われてもっとなきそうになった。でも、わたしはじぶんの気もちが分からなくなっていた。もうなにも考えられなかった。わたしもがんばったって思うけれどけっかがついてこなかったから。

今、わたしは、今年の大会のれんしゅうをがんばっている。千ば大会もぜんこく大会もゆうしょうしたいからだ。わたしの気もちは、もうまいごになっていない。